

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和6年〇月

事業所名：児童発達支援センターかしのき園 毎日通園(単独)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や玩具を定期的に見直し、入れ替えをしている。 ・走る時や人数の多い時は職員が誘導して安全に過ごせるようにする。 	14				点検や状況に応じた対応を行うと共に、現在の取り組みを引き続き行っていく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応ができるように職員の人数は余裕を持たせている。 ・職員の知識向上のため研修の参加、先輩職員との意見交換の時間等を設けている。 	14				知識向上のため職員研修・育成に努めていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> ・指導室内、トイレや手洗い場など必要に応じ写真・カードなどを掲示している 	14				継続して取り組んでいく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策・登降園前後の掃除は毎日行っている。 ・感染予防対策も含めて、毎日降園後玩具や手が触れる場所は消毒を徹底している。 子どもたちや職員はこまめな手洗い、うがい手指消毒を行っている。 	14				継続して取り組んでいく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に会議を行い、職員間で意見を出し合って振り返りを行っている。 	/				継続して取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない。 	/				今後実施に向けて検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修の情報を取得し、受講の促進と受講のための環境の整備をおこなっている。 	/				できる限り話し合いの場を設けていく。

適切な支援の提供	1	子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	・児童発達支援管理責任者を中心に、職員間で話し合い、その内容を元に作成している。 継続して年2回、目標・達成度・次課題など個々に応じた作成を行っている。	16				個別支援計画を作成し、クリアできて成長を感じている。	継続して取り組んでいく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	・子どもの特性等を見極め、効果的な支援を実施している。						状況に応じた対応を行っている。
	3	個別支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	・児童発達支援管理責任者と保護者が話し合い、子どもの課題を抽出し、支援目標、達成時期などを内容とした計画を作成している。	16					親子通園や連絡ノートなどで子どもの情報を共有し、現状を踏まえて作成している。
	4	個別支援計画に沿った支援が行われているか	児童発達支援管理責任者が現場に入り、必要に応じて職員に助言している。	16					常に職員の様子を把握するようにし、必要に応じて指導を行っている。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・クラスごとに月や週の計画を話し合い、立案している。						週・月案を作成し、クラス外の職員とも共有している。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・連絡ノート・個人懇談・親子通園を通して、又は必要に応じて電話にて対応を行う。						継続して取り組んでいく。
	7	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	・子どもの様子や行事などを考慮してプログラムを決定し、保護者に説明している。 ・又、併設のかしの木こども園の園児との交流を取り入れている。	16				色々な楽しい取り組みをしている。	子ども達が色々な経験ができるように計画を立て実践している。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・前日にクラスや終礼で全体確認している。						継続して取り組んでいく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・クラスごとに反省会や、終礼で全体共有している。						継続して取り組んでいく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・個人記録に記録すると共に、終礼で全体共有している。 ・個人記録した内容を支援を行う中で活かしていく。						継続して取り組んでいく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリングを実施し、保護者に説明し、意見・要望を今後の計画に取り入れる。						相談支援事業所の情報を必要に応じて個別支援計画に取り入れている。

関係行政機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参加	・必要に応じ、相談支援事業所の専門員と協議している。	/			定期的な連絡を取り、情報共有を行っている。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	/			/		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	/			/		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・必要に応じて、適宜引継ぎを行っている。	/			継続して取り組んでいく。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	/			/		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の促進	・必要に応じ連携する。研修についても受講するようにしている。	/			継続して取り組んでいく。	
	7	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・園庭遊びでの関わりや、季節の遊びや行事など、併設しているこども園の園児と一緒にする機会を増やしていく。	11	1		4	交流は数回設け、動画や写真などで様子を紹介している。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・運動会などの行事に地域の老人会や自治会の方に参加を呼び掛けている。	/			地域住民への呼びかけは現在おこなっていない	

保護者への説明等	1	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	・入園前に説明会や契約日で重要事項説明書などにより説明し、質問等に答えている。	16				継続して取り組んでいく。
	2	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	・支援計画を示し、現状を踏まえながら説明をする場を持っている	16				個別支援計画を示して説明している。
	3	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	・親子通園や個人懇談の機会に勉強会や意見交換などを行い、保護者の相談にも応じている。	16				内容など工夫しながら引き続き取り組みを行っていく。
			・親子通園で勉強会や意見交換する機会もあり、相談などにもアドバイスを頂けている。 ・親子通園での勉強会や他の保護者の方との交流の機会は本当にありがたい場所になっている。					
	4	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	・連絡ノート・懇談会の場や親子通園で説明して、話し合う。	15	1			継続して取り組んでいく。
	5	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	・親子通園や個人懇談(年3回)の機会に相談に応じており、要望があれば個別相談に応じている。 又、必要であれば電話で対応していく。	16				継続して取り組んでいく。
	6	親子通園等の場において、保護者同士の連携に支援されているか	・他クラスの保護者とも親睦がとれるよう毎月クラスの組み合わせを変え、話し合いの時間を設けている。	15	1			内容など工夫しながら引き続き取り組みを行っていく。
			・親子通園で交流の場を設けていただいている。 ・親子通園時に保護者だけで意見交換できる時間もあり、とてもよいと思った。					
	7	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・苦情や要望の窓口を設けており、迅速に対処している。	13			3	継続して取り組んでいく。
	8	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	・親子通園や連絡ノート、「かしのき園だより」での情報の提供の他に、バスの登降園時にも園からの連絡事項や子どもの様子を伝えている。 ・親子通園時に行事等の活動の様子を動画で見てもらっている。	16				継続して取り組んでいく。
9	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定などについて、子どもや保護者に対して発信しているか	・社会福祉法人樫の木会のホームページに情報等を掲載。施設待合室の掲示板上に随時必要な情報を掲示している ・適宜、園だよりや手紙等でお知らせしてる。	16				継続して取り組んでいく。	
10	個人情報の取扱いに十分注意されているか	・個人情報取扱規定に基づき、秘密の保持に努めている。	16				継続して取り組んでいく。	

非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	・入園説明会で説明すると共に状況に応じて必要時に書面でお知らせしている。	15	1			継続して取り組んでいく。
	2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	・月に1回避難訓練を必ず実施している。 又、災害に備えての備蓄もしている。	16				訓練は引き続き定期的に行っていく。職員の知識・実践力が高められるように引き続き学びの場を設けていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・各種団体が実施する研修会への受講や職場会議で討議を行っている。	/				定期的な研修を行い知識や意識向上に努めている。
	4	やむを得ず身体的拘束を行う場合における組織的な決定と子どもや保護者に事前に十分に説明、了承を得たうえでの児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体的拘束は行わない。					対応など常に意識して行動し職員間で言葉を掛け合うようにしている。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・保護者から情報を得て、医師の指示書に従い適切に対応している。					継続して取り組んでいく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・毎日、職場会議で、ヒヤリとすることがあれば話し合い、防止策などを含めて記録する。					継続して取り組んでいく。

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和6年〇月

事業所名：児童発達支援センターかしのき園 指定日通園(親子)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	同じ空間で一緒に遊ぶ経験ができるよう、十分な換気に気を付けながら工夫していく。かしのき園での療育の方法は、決まった時間・決まった場所で行うことを前提として考えている。	11				療育内容により部屋を替えて活動しやすいように工夫している。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	職員の体調などにより一時期職員の数が減っていると感じられたかもしれないが、配置基準に沿った適正な人員を配置している。	10			1	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	その都度子どもに合わせて分かり易く環境を整備し、視覚支援を行っている。 個別と集団で部屋を変え、子どもに分かり易くしている。	11				環境整備や視覚支援をすることで子どもたちに伝わり易くなるよう工夫している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		11				
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員全員で意見を出し合い改善すべきことは速やかに改善している。	/				継続して取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	必要な時は実施を検討する。	/				必要な時は実施を検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	積極的に推進している。	/				継続して取り組んでいく。

適切な支援の提供	1	子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	モニタリングを行い、その都度支援計画を立てている。	11				療育中に保護者と話す中でニーズや課題を考えているが、定期的に関き取り調査をし、必要に応じ計画を書きかえている。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	必要に応じ作成している。	/				継続して取り組んでいく。
	3	児童発達支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	入園時期により計画を立てる時期が異なっているが、定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。	11				支援計画には具体的な療育内容を書き、家庭でも保護者が取り組めるようにしている。
	4	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	入園時期により計画を立てる時期が異なっているが、定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。	11				定期的に保護者に関き取りを行い、支援計画の達成状況を確認している。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	担当者を中心に全員で立案している。	/				継続して取り組んでいく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日の過ごし方を保護者と共に考える支援を行っている。	/				継続して取り組んでいく。
	7	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	療育を進めていく中で充分支援内容が達成され、必要がなくなってきたと思われる場合は次のステップを保護者と話し合う。	7	4			活動プログラムは、子どもの状況によって固定化した方が良いか、変化が必要かなどを考えている。必要に応じプログラムを変更している。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	必要に応じ確認している、	/				継続して取り組んでいく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	その都度行っている。	/				継続して取り組んでいく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々記録を取り定期的に検証している。	/				継続して取り組んでいく。

	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	年間2～3回のモニタリング会議を持ち、必要に応じ見直している。	/			継続して取り組んでいく。	
関係行政機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	相談事業所の求めに応じ行っている。	/			継続して取り組んでいく。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		/				
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備		/				
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者の希望により連携を行っている。	/			継続して取り組んでいく。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	必要に応じ対応している。	/			継続して取り組んでいく。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の促進	機会があれば参加を促進している。	/			継続して取り組んでいく。	
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	同じ敷地の中で隣り合っている施設があるので日常的に園庭では交流がある。	7		1	3	同じ敷地内でこども園との交流が自然に行われることがあるが、療育のプログラムとしては交流はしていない。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	行事を行う予定がない。	/			行事を行う予定がない。	
	1	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	入園前に必ず重要事項説明書により説明し、質問等に答えている。	11				継続して取り組んでいく。
	2	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	支援計画をお渡しする時に説明し、サインをいただいている。	11				継続して取り組んでいく。

保護者への説明等	3	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	保護者同室の療育の中で、保護者の方にアドバイスしていることがペアレントトレーニングの一環と考えておこなっている。 療育中に話づらい内容であったり、別に相談がある場合はその都度申し出てもらい時間をとって電話や来園で対応する。	10	1			<ul style="list-style-type: none"> 先生から色々アドバイスをいただいて、大変成長した部分もあり、ありがたく思っている。 療育に行っている間に色々相談することができ、専門的なアドバイスをもらえ、大変助かっている。 療育の中でも話しやすい環境を作って下さり、アドバイスや助言をしてくださる。 	これからも保護者同室の療育の中で保護者支援・家族支援を行っていく。
	4	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	保護者同室の療育であり、その目的の一つが子どもの現状の共通理解と考え、子どもの前で話し合えるよう考慮している	11					子どもと一緒に遊ぶ中で保護者の方にも分かりやすく説明していく。
	5	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	療育時間内に保護者の相談に応じているが、子どもと一緒にいない方がよい場合は、別の日程を設定したり、電話での相談を行う	10				1	これからも療育の中で相談に応じ、必要な時は別の日に保護者のみの相談を行ったり、電話による相談を行う。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	保護者会などの設置予定はないが、保護者向けの講演会や勉強会など、開催できればと思っている。	3	2	2		4	保護者会の設置はしていないが、子どもたちのグループを組んで療育する中、保護者同士の話が進むように支援していく。
	7	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	保護者からの相談や苦情にはできるだけ速やかに対応するようにしている。	9				2	苦情までではないがいろいろな提案や相談にはできるだけすぐにお応えするようにしている。
	8	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	グループ療育だけでは個々に充分なお話しができないため、指定日通園(親子)では必ず個別療育を基本で受けて頂くようにしている。	11					グループ療育のみでは他の親子もいるので、必ず個別療育を基本に受けていただく方針にしている。

	9	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定などについて、子どもや保護者に対して発信しているか	社会福祉法人樫の木会のホームページに情報等を掲載。施設待合室の掲示板など見やすいところに随時必要な情報を掲示している。	7	2		1	ホームページの情報だけでなく待合室の掲示板上に予定などを貼り出している。	
	10	個人情報の取扱いに十分注意されているか	個人情報取扱規定に基づき、秘密の保持に努めている。	11				これからも注意して行っていく。	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	保護者へ掲示などを通じ知らせる。	10	1			これからも掲示などをし、必要に応じ説明する。	
	2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	避難訓練時に登園している時は参加する。時間帯が合えば訓練への参加を呼びかけていく。	9			2	継続して取り組んでいく。	
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	保護者同伴の療育であり、現状では必要な場面はない。職員が保護者へ虐待について指導するうえで必要な研修を行っている。	/					継続して取り組んでいく。
	4	やむを得ず身体的拘束を行う場合における組織的な決定と子どもや保護者に事前に十分に説明、了承を得たうえでの児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載							
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事等の提供はない。	/					必要な時は実施する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの事例があった場合は、速やかに職員間で共有し対処するようにしている。	/					継続して取り組んでいく。